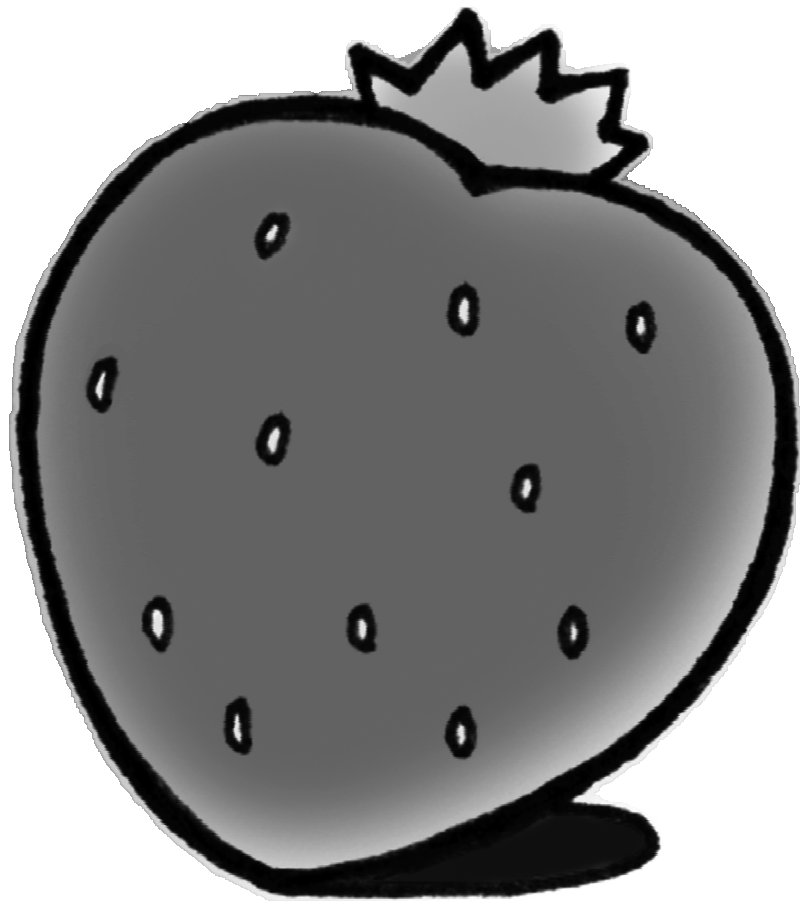


ベリー会10年のあゆみ



NPO法人

KHJとちぎベリー会

目 次

1. 10周年を迎えて
特定非営利活動法人KHJとちぎベリー会 理事長 齋藤 三枝子
2. 10周年おめでとうございます（お祝いの言葉）
NPO法人全国ひきこもりKHJ親の会 代表理事 池田 佳世
3. ベリー会10年の歩み
4. ベリー会がかかわった事業
5. メンバーからの一言
6. 連絡先

1. 10周年を迎えて

特定非営利活動法人KHJとちぎベリー会 理事長 齋藤三枝子

「ベリー会」は平成14年12月に発足してから満10年を迎えました。このように長い間ベリー会を続けてこられたのは、会員はもとより、参加いただいた皆様や関係者の皆様のご協力、ご支援の賜物と心より感謝とともにお礼を申し上げます。

活動は、毎月1回の月例会による家族ミーティングや専門家による講演会などを中心に、引きこもりからの回復を目指して来ました。この間、「元気になりました」、「中間施設へ繋がりました」などの嬉しいご連絡も沢山頂きました。しかし、個別相談会などを開くと相談者が多いこと、ベリー会へ新規入会する方も減らないことなど、この問題で困っている方が多いことも分かりました。さらに青年たちが元気になっても、直ぐ就労や中間施設へ繋がることは難しく、個々にあった段階的なステップアップの場が必要であるなど、会としても取り組まなければならない点が多く見つかりました。そこでこれらに取り組むために平成21年9月にNPO法人と致しました。これまで「花王・ハートポケット倶楽部地域助成」「とちぎコープNPO法人助成」「中央ろうきん助成」「社会福祉協議会：地域の福祉力整備促進事業費助成」「ドコモ市民活動助成」など社会貢献されておられる企業等から活動を認めて頂き、助成金を頂きました。この貴重な助成金を活用して「居場所」「メンタルヘルス事業」「電話相談事業」「親父の学習会」等に取り組んでおります。

また、長期化する問題や同一場所での長期的支援など、引きこもりに特化した問題の解決に取り組んで頂けるように、平成24年9月20日栃木県知事へ「ひきこもり地域支援センター」設置の要望書を提出し、この設置の約束を頂きました。

このたび、これらの活動記録や皆様からお寄せいただいたメッセージなどをまとめ、手作りではありますが10年の歩みを発行いたしました。目を通していただけたら幸いです。

ベリー会はこの10年を契機に、これからも青年達のより良い社会生活を目指して活動を続けて参ります。活動に関して皆様のご意見やご要望がありましたら是非お聞かせ下さい。また関係者の皆様には、これからも変わらぬご指導ご鞭撻をお願い致します。

同じ趣旨で活動されている皆様、「ひきこもり地域支援センター」の設置を実現させるため一緒に取り組みませんか。ご連絡をお待ちいたしております。

2. 10周年おめでとうございます

NPO法人全国引きこもりKHJ親の会代表理事 池田佳世

ベリー会の皆様、10周年おめでとうございます。ベリー会は関東ブロックの北に位置して、元代表の埼玉の奥で、コツコツと地道に会を続けていらっしゃいました。会長さんが埼玉、東京まで足を運んでいらっしゃると感心して見て参りました。宮崎のように遠くはないのですが、行って帰ってくると、やはりその遠さを確認してしまいます。悩みだったお父様達もたくさん来るようになります、行政への働きかけもやってみるベリー会にとっての第2段への幕開けといえます。

これからは、一段と我が子への視点を強く持ち、静かでも活発に動き、一步でも早く子の回復へ向かおうではありませんか。不登校もそうですが、ひきこもりも早期対応、これに尽きると思います。子の回復のために早くなりふり構わず親が動くこと、もちろんお子さんに言う必要はありません。プレッシャーになりますから。この頃親も何を始めたんだろうと子の頭に？を作ることをお勸

めします。会長さんだけが動くというのではなく、みんなで今までやらなかった新しいことに挑戦してください。ひきこもりの家族会は他の家族会と比べて、総じて大人しいです。子どもがひきこもっているのが親までひきこもる必要はないのです。

今後も行政へひきこもり支援センターの内容、サポーターの研修の開催、参加、サポーター派遣登録と、ひきこもり経験者と親が一人でも多く入ってください。ひきこもりのことを知っている人として、他の子のために親が動くことで、我が子も動き始めたという例はたくさんあります。忙しいという理由はいかようにもつけられます。課程はひきこもりのお子さんに手伝ってもらって、親が外へ出ることで、三世代の関係も変わってきますでしょう。

親が知恵を使って、失敗しながら動き、いつかは子に変化していたといえるまで動いていきましょう。我が子のひきこもりは家族の成長を促しているのです。

もちろん基礎は子どもの話を我慢して聞き、理解して聞けるようになることでしょう。

3. ベリー会10年のあゆみ

平成14年11月 3日 セミナー「引きこもりからの旅立ち」

講師 NPO法人全国引きこもりKHJ親の会代表理事 奥山雅久

「引きこもり体験談」 当事者

12月22日 セミナー参加者有志で親の会「ベリー会」発足

第1回月例会開催

平成15年 2月 9日 引きこもり実録映画「home」上映 講師「home」主人公 小林博和

4月24日 若者の居場所始 山本和彦

6月15日 「引きこもり訪問サポート士」養成教本で勉強会始まる

講師 栃木県カウンセリング協会理事 大橋房子

6月29日 「引きこもりを考える」

講師 マインドヘルスパーソナリティセンター代表 矢吹孝志

7月 6日 高根沢「心の探検」シンポジウム「社会的ひきこもり その心」

講師 評論家・精神科医 斉藤環

(パネリストとしてベリー会会長参加、協力)

8月31日 「困った子ほどすばらしい」講師

KHJ東東京「楽の会」代表理事 SCSカウンセリング研究所代表 池田佳世

12月14日 1周年記念講演「ひきこもり対策元年スタート」

講師 NPO法人全国引きこもりKHJ親の会代表理事 奥山雅久

平成16年 5月30日 「引きこもりからの社会参加と就労」

講師 育て上げネットセミナー 工藤定次

10月 2日、3日 第1回全国地区代表者研修会議 参加

(東京ホテルメトロポリタンエドモンドにて)

1 1 月 2 3 日 「子供の心の奥にあるもの」
講師 子育てカウンセラー・心療内科医 明橋大二
(ホワイトキャンパス主宰 講演会に協賛)

1 2 月 1 2 日 2 周年記念講演「ひきこもりからの自立へ現状と課題」
講師 NPO 法人全国引きこもり KHJ 親の会代表理事 奥山雅久
(当事者の若者とお母さんの体験談)

その他 平成 1 6 年 1 月より足利の居場所はじめる
(とちぎボランティアネットワーク中野さん、ホワイトキャンパスの山本さん
と一緒に)

1 2 月より訪問サポート実践

平成 1 7 年 1 月 2 3 日 「心の安定と強く生きる知恵」 講師 新家庭教育協会 理事 高柳静江

1 2 月 1 1 日 「引きこもり問題に取り組んで課題と展望」 3 周年記念講演
講師 NPO 法人全国引きこもり KHJ 親の会代表理事 奥山雅久
三味線演奏 沼尾忠宏さん
若者によるトークセッション

KHJ 本部スタッフ・居場所・家族教室主宰 藤代寿樹

居場所・ホワイトキャンパス主宰 山本和彦

KHJ 本部広報・訪問サポート士 内藤孝二

平成 1 8 年 1 0 月 2 9 日 「社会不安障害 (SAD) という病気について」
講師 一番町クリニック院長 手塚隆夫

1 1 月 2 5 日 ワカモノフェスタ参加協力

1 2 月 1 0 日 「引きこもり案件へのガイドラインに続く制度対応を求めていく
全国的行動」
講師 NPO 法人全国引きこもり KHJ 親の会代表理事 奥山雅久

平成 1 9 年 5 月 2 0 日 鹿沼二燈院でお茶摘み

1 2 月 9 日 ワカモノフェスタ参加協力

1 2 月 2 3 日 5 周年記念講演「引きこもり問題 決まりだした方向性」
講師 NPO 法人全国引きこもり KHJ 親の会代表理事 奥山雅久
「一人一人の自立のあり方」
講師 とちぎ若者サポートステーション 中野謙作

平成 2 0 年 6 月 2 9 日 「引きこもりからの回復 親のステップ 若者のステップ」
講師 新潟県 佐潟荘副院長 精神科医・心療内科医 医学博士 中垣内正和

1 0 月 1 9 日 「発達障害についての学習会」
講師 宇都宮市教育センター相談グループ係長・臨床心理士 大瀧伸一

1 2 月 7 日 ワカモノフェスタ 参加協力

平成21年 1月25日 6周年記念講演会 「動き出す国の引きこもり総合施策に向けて」

講師 NPO法人全国引きこもりKHJ親の会代表理事 奥山雅久
若者体験談「引きこもりからパートへ そして獲得した正社員への道」

吉成勇一

若者の三味線演奏と歌 漫画家・三味線演奏家 沼尾忠宏

7月19日 「若者自立支援の今とこれから」

講師 とちぎ若者サポートステーション 中野謙作

9月 1日 ベリー会 NPO法人になる

名称「特定非営利活動法人KHJとちぎベリー会」

10月 3日 さぼせんまつり参加

11月 7日、8日 第5回 全国大会 仙台大会 3人参加

11月22日 「引きこもり回復に向けての親の関わり方」

講師 KHJ千葉県「なの花会」理事長 藤江幹子

12月 6日 ワカモノフェスタ参加協力

12月13日 「どうして？それはもしかしたら発達障害かもしれません」

講師 臨床心理士 山岡祥子

その他 佐野市 手作り小物店 （きらら）オープン
若者の作品展示 販売

平成22年 1月24日 NPO法人化記念講演会

「子ども若者育成支援推進法を生かすために」

講師 NPO法人全国引きこもりKHJ親の会代表理事 奥山雅久
「引きこもりに関わって15年 早い回復、長引く回復」

～親亡き後の心配を減らすために～

講師 NPO法人 以和貴 元理事長 小西勝之

4月25日 学習会 「親父の内省」

講師 NPO法人全国引きこもりKHJ親の会代表理事 奥山雅久

5月12日 引きこもり回復プログラム（月例会の他に学習会始まる）

理解しよう青年期の心 発達課題 講師 カウンセラー平峯孝二
対応を考える 性格を知る 講師 カウンセラー斉藤三枝子 他

5月23日 フェスタmy宇都宮2011に参加

5月26日 宇都宮 わかものの居場所始まる（宇都宮東生涯学習センター）

6月20日 学習会「閉じこもり状態の対応」

講師 グローバルヒューマン代表理事 大河原康雄

8月29日 学習会「なぜ自己主義がよいか」 講師 内藤孝二

10月 2日 さぼせんまつり参加

11月13日、14日 第6回 全国大会 東京大会参加

（NPO法人全国引きこもりKHJ親の会奥山代表の関わる最後の大会）

12月19日 「青年期の疾病について」 講師 南町クリニック院長 服部 功

平成23年 1月30日 「支援者の立場から若者に伝えたいこと 家族に伝えたいこと」

NPO法人文化学習協同ネットワーク 講師 代表理事 佐藤洋作

3月 2日 当とちぎベリー会が立ち上げ当初からお世話になったNPO法人全国引きこもりKHJ親の会代表理事「奥山雅久氏」※が病気のため逝去

※奥山雅久氏

奥山氏は癌やその他の病気と闘いながら、全国の引きこもり者及びその家族のために文字通り粉骨砕身、身を削りながら引きこもり問題に取り組まれて来られました。

引きこもりが社会的に認識され、国や自治体の支援が始まったのは全て奥山さんの厚生労働省や国会議員への働きかけがあったからでこそのものであり、当とちぎベリー会としても敬意を表して余りあるものがあります。

翌平成24年1月21日には、東京王子駅前「北とぴあ13階飛鳥ホール」にて、奥山氏と親交の深かった医学博士で帯津三敬病院名誉院長「帯津良一」先生の追悼講演会が開催されました。（ちなみにこの時の総合司会は当とちぎベリー会副理事長の阿久津が依頼され担当）

後任代表理事にはSCSカウンセリング研究所代表でありKHJ東東京「楽の会」代表理事でもある「池田佳世」先生が就任

4月17日 「年金等についての学習会」 講師 社会保険労務士 田中義博

5月29日 「若者を孤立させない為に家族が出来ること」(CRAFTの応用)

講師 徳島大学大学院ソシオ・アーツ・サイエンス研究部
准教授 境泉洋

6月26日 「社会不安障害(SAD)についての学習会」

講師 一番町クリニック院長 手塚隆夫

6月～11月 親父の会※学習会(全6回)開催

「父親のための引きこもり回復プログラム」

講師 SCSカウンセリング研究所所属 心理士 野中俊介
高橋 晋

※親父の会

平成24年4月1日発行全引連ニュース「旅立ち」でも活動状況が紹介されましたが、平成23年度からお父さん方の「情報交換の場」と「懇親」「学習」等を目的としてベリー会の中に「親父の会」が発足しました。

具体的な活動としては、毎年6月から11月まで毎月第2水曜日夜6:30～9:00に、6回シリーズで「父親のための引きこもり回復プログラム」と称して、学習会を開催しています。講師は東京の「SCSカウンセリング研究所」から野中講師と高橋講師に来ていただき、「宇都宮市東市民活動センター」で開催しています。

他に情報交換・懇親の場として9月に「カラオケ懇親会」11月には「ボウリング懇親会」を実施し、盛り上がっています。「親父の会」という名称ではありませんが、学習会は大変好評でお母さん方も多数参加されています

10月30日 「家族の相談から見てきたこと」

講師 栃木県精神保健福祉センター 教育援助課 技師 横地信矢

12月 4日 ワカモノフェスタ 参加

その他 不登校 引きこもりに悩む家族（当事者含む）のための個別相談会
9月21日 栃木県 精神保健福祉センター
9月27日 //

12月21日 矢板健康福祉センター

平成24年 1月29日 「変化の時代、若者たち親たちはどうするか」

講師 新潟県 佐潟荘副院長 精神科医 心療内科医
医学博士 中垣内正和

1月30日～2月3日 「困難を有する子ども・若者の相談業務に携わる民間団体職員研修」に参加 国立オリンピック記念青少年センター

3月18日 ベリー会の電話相談、来所相談が始まる

アミークスにて週4日（火・木・土・日）通年

3月25日 「私が活きる、あなたが活きる～活きるコミュニケーションのための道具の紹介」 講師 マロニエ医療福祉専門学校 医療学部
作業療法学科長 渡辺厚司

6月～11月 全6回「父親のための引きこもり回復プログラム」

講師 SCSカウンセリング研究所所属 心理士 野中俊介

7月29日 「不登校、引きこもりに対する宇都宮の取り組み」

講師 宇都宮青少年自立支援センター 所長塚田哲夫、柴田正記

10月28日 「取り組み続けた親の出した結論」

フレンズスペース24年 SCS14年の中のケース

講師 特定非営利活動法人 フレンズスペース相談部長

SCSカウンセリング研究所所長 榊田宏子

12月 2日 ワカモノフェスタ 参加 フリーマーケット 個別相談参加

4. ベリー会がかかわった事業

栃木県委託事業

ゲートキーパー養成講座（全3回）

平成24年12月15日 電話相談員養成基礎講座（1）会場 コンセーレ 参加人数 49名

平成25年 1月26日 電話相談員養成基礎講座（2）会場 コンセーレ 参加人数 49名

講師 社会福祉法人 栃木いのちの電話常務理事兼事務局長 大橋房子

平成25年 2月10日 公開講座 会場 栃木県教育会館 参加人数 109名

『若者のひきこもりの実態と対応について』～内向する攻撃性の視点から考える～

講師 明星大学教授大学院人文学研究科長 高塚雄介

当事者体験談 なの花会 岩崎敬太郎

ピアノ演奏 稲葉庸介

他団体連携事業

平成24年 7月21日 うつのみや青少年自立支援イベント 南図書館

映画「アンダンテ～稲の旋律～」 実行委員

平成25年 2月 6日 栃木県新たな担い手支援事業 中途退学に関わる課題・支援検討委員会
構成メンバー

大学生や中途退学者の悩みを考えるシンポジウムに参加

～中途退学者の社会的自立を考える～

支援団体としてパネル掲示

5. メンバーからの一言

幾多の機関へ相談に行きベリー会にたどり着きました。何よりも仲間から多くのことを学びました。息子との関係を改善し、私達なりの生き方を見いだしつつあります。

宇賀神

とちぎベリー会発足10周年、会長さんをはじめ役員の皆様に感謝申し上げます。
当事者の親として同じ悩みを持つ人々との会は初めて逢った方でも気持ちが通い合い、故奥山先生が言われた「私たちにはもう一つの家族があるのですから」という言葉の通りだと思います。他の方の喜びや悲しみが自分のことのように思われます。これからも会の皆様と協力して引きこもりの方々が働けるような共同労働の場を実現できればと考えます。

毛塚

KHJ とちぎベリー会が10年の節目を迎えられるのは、理事さんや多くの方が頑張ってくれたからだと思います。ありがとうございました。そして、これからもよろしくお願いします。私は、ひきこもっていた息子や娘を通して、多くの方に出会うことができました。いろいろな方と出会えたことに感謝しています。

そして、自分のこと、家族のことをおしゃべりする機会が増えました。「家もそうなのよ」という言葉で救われた思いがしました。おしゃべりすることで、自分が少しずつ解放され、楽になりました。

小林

仲間と出逢って10年。語り尽くせないほどの変化の多い年月でした。ある時ベリー会に辿り着いた方がいらっしゃいました。帰りに仲間がお声をかけました。

「大変でしたね。いっしょにがんばりましょう」その方は泣いていらっしゃいました。やっと自分の悩みをわかってくれる人に出逢えた。そんな涙だったと思います。そして私はそんな言葉をかけた仲間をすばらしいと思いました。今もその感動を胸に通い続けています。

今や居場所は場所ではなく、そこに集う人こそが力なのだと感じています。

あなたの心の居場所をさがしてください。きっとあるはずですから……

E.S.

春の訪れ

息子が進学校に合格した喜びもつかの間、不登校になったのが19年前の夏でした。時を同じくして不登校になり、その後引きこもりの生活に入ったまま社会へ参加できずに悶々をした日々を過ごしている若者多数いらっしゃると思います。

我家の異変に驚き一刻も早く元の生活に戻そうと相談機関へ通ったりしました。その中でベリー一会という親の会に出会ったことが私を支え息子の自立につながったと確信しています。悩みを話せる仲間がいて本音で話せるベリー会があるのです。まずは自身の悩みを話してください。

吉成

ベリー会との関わりは、10年前ひきこもりについて講演会があることを新聞で知り参加しました。とても厳しく絶望感さえ与えるような話だったと記憶しています。その後の講演会でも先生方の考え方は様々で、机上の空論と思えることや参考になる話もたくさん拝聴してきました。グループミーティングの実話は時には涙あり笑ありの世界で共感できるものばかりです。

私の考え方として、①ひきこもりの初期でしたが人は80才～90才も生きられる現在、その中の5～6年は休養しても良いのではないかと思います。ひたすら待つことと共に命を守り、余計な言葉（就職するようにとか、日常生活をやかましくいう）は、けっして言いませんでした。②不信感で無言の時は、お互いに手紙で意志を伝達し、今どのような考えで過ごしているか、また病状の変化等を把握して来ました。③私の行動は全てカレンダーに記入し、どこで何をしているかをわかるように心がけました。「こんな子がいるのによく出かけられるわね」と言われたこともあります。外出することにより親が優しくなれるような気がしています。こんなに楽しく美味しい食事等を子供にも味合わせたいと自然に思います。そのような気持ちは心の角が取れて丸くなっていくものと確信しています。

我が家の10年寝太郎は、徐々に動きだし、ベリー会にも参加できるようになりました。又、好きな本を読み、資格取得のため勉強も始めました。とても穏やかで真面目な寝太郎をいとおしく感謝している今日この頃です。

今後はベリー会発展のため、微力ながら協力させていただきたいと思います。

M.N

6. 連絡先

特定非営利活動法人KHJとちぎベリー会

<http://khj-tochigiberry.net/>

mail1@khj-tochigiberry.net

住所：321-0954 宇都宮市元今泉5-9-7

宇都宮市まちづくりセンターまちびあ内2Fほっとベリー

FAX 028-663-5022

携帯:090-1846-4004（齋藤）